

---

[JJ] Eveningポスター発表 | セッション記号 S (固体地球科学) | S-SS 地震学

## [S-SS12]地震活動

コビーナ:勝俣 啓(北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター)

2018年5月24日(木) 17:15 ~ 18:30 ポスター会場 (幕張メッセ国際展示場 7ホール)

地震を集団として扱う視点から、その活動について討論する。各地域での活動の記述や個々の余震活動などの解析に加え、地震活動を支配するプロセスの理解を目指し、さまざまな時空間スケールでの相互作用についても議論する。あわせて、地震活動の境界条件となるテクトニクス・地質構造・温度構造や地震活動に付随する諸現象についての発表も歓迎する。

---

## [SSS12-P08]2016年熊本地震の地震波形記録の S波開始時刻の読み取り

\*大島 光貴<sup>1</sup> (1.清水建設株式会社)

キーワード：S波、立ち上がり時刻、2016年熊本地震

S波の立ち上がりの読み取りは、震源決定、地震波トモグラフィー、波形インバージョン、スペクトルインバージョン等、地震学の様々な場面で必要になる。S波の立ち上がりはP波の後続相と重なるために、P波の立ち上がりと比較して読み取りが困難となる。特に、近地記録は局所的な地盤特性などによる影響が大きいため、S波の立ち上がりが不明瞭となることがある。一方で、S波の立ち上がりの読み取り精度は前述の解析の結果に影響する。このため、S波の立ち上がりを精度よく客観的に行うことが重要である。

近年、多くの地震観測点で地震波形データが得られるようになり、それらの地震波形データを自動処理する必要から、P波やS波の自動読み取り処理を行うための様々な方法が開発されている。それらの自動読み取り処理には、STA/LTA、極性解析、波形の振幅の統計的特性などが用いられている。

本研究では、2016年熊本地震のKiK-net地中観測点の記録にこれらの手法を適用し、高精度かつ客観的なS波の読み取りを試みる。

謝辞：本研究には、防災科学技術研究所のKiK-netの強震波形記録を使用させて頂いた。ここに記して御礼申し上げます。